

## 海外安全対策情報（平成26年第4四半期：コロンビア）

### 1 社会・治安情勢

1月14日、サントス大統領は政府側和平交渉団に対し、出来るだけ早期に双方向の停戦につき協議を開始するよう指示した。これに対してFARCは、現在も国軍がFARCに対して攻撃を続けており、発言と状況が相反しているとして批判した。なお9日、カケタ県において、2014年12月20日にFARCが無期限一方的停戦を宣言してから初となる国軍兵士の死亡が発生した。

3月10日夜、サントス大統領は国民向けに演説し、政府がFARC野営地への爆撃を1か月間停止する旨発表した。3月11日、デ・ラ・カジェ政府側和平交渉団長は、記者会見において、FARC野営地に対する爆撃停止は国軍と調整の上決定したものであり、この暫定措置は、双方向停戦を意味するものではない旨述べた。

### 2 一般犯罪の傾向

#### (1) 犯罪別発生件数

第4四半期（1月～3月）のコロンビア全国における罪種別犯罪発生件数は以下のとおり（出典：コロンビア国防省統計）。

・殺人	3,066件
・強窃盗（対人被害）	26,365件
・強窃盗（邸宅、商業施設被害）	11,684件
・強窃盗（乗物被害）	8,569件
・性犯罪	5,340件

#### (2) 邦人被害事案の例

- 1月、旅行中の邦人がボゴタ市中心部の旧市街地を一人で散策中、観光客の少ない路地を通りかかったところ、男性三人組に周りを囲まれ、肩にかけていたショルダーバッグを強奪された。被害者は転倒し負傷。
- 2月、旅行中の邦人が一緒に旅行している女性と夕食を終えた後、大通りでタクシーを拾おうとしていたところ、後ろから接近してきた若い男性2人に刃渡り40センチほどのナイフを突きつけられ、所持品を差し出すよう脅され、抵抗せずに鞆を渡した。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

#### (1) 発生件数（1月～3月）（出典：コロンビア国防省統計）

91件

#### (2) 発生事案

国内において、以下のテロ・爆弾事案が発生した。

- 2月6日、ボゴタ市内の交番に対し、小包爆弾が届けられたが、当局により解体された。
- 2月10日、ボゴタ市議会及び政党「市民の選択党」本部付近で小規模な爆発があり、市民1名が軽傷を負った。
- 3月12日、ボゴタ市内で ELN によって仕掛けられた警察官を狙った爆発物が爆発し、警察官5名と市民3名が負傷した。

#### 4 誘拐・恐喝事件発生状況

(1) 発生件数 (1月～3月) (出典：コロンビア国防省統計)

ア 誘拐 68件

イ 恐喝 1,868件

(2) 発生事案

本年1月～3月期間中の外国人被害に係る誘拐事案の報道なし

#### 5 日本企業の安全に関する諸問題

政府の継続した治安対策により、ボゴタを始めとする都市部ではテロ、殺人及び誘拐の発生は減少し、都市部の治安状況は過去と比べ改善されている。

しかしながら、2014年6月、ボゴタ市内で警察施設を狙った爆弾テロが発生するなど未だ警戒を怠ることはできない。また、山間部やジャングル地帯は国軍・警察の影響力も低く、特に治安機関及び石油・電力施設を狙ったテロが頻発し、人的・物的被害が絶えない。

さらに、現在キューバの首都ハバナにおいて、政府側とFARC側の代表団が交渉を継続中である和平交渉が合意に達したとしても、社会復帰が出来なかったゲリラが一般犯罪に手を染めるなどの不安要素が存在することから、治安の動向は予断を許さない状況になるものと思われる。

従って、特に地方への訪問については、その可否を決定する上でも、外務省、大使館、現地治安当局より最新の治安情報を入手するよう努めていただきたい。